

終戦から七十五年が経った今、世代交代が進み、当時の記憶は失われつつある。日本人には現在、比較的恵まれた環境の中で生活しており、特に現代の若者にとっては、それがむしろ当たり前のこととなり、戦争は身近なものではなくなっている。戦後、誰もが世界の恒久的平和を望み、二度と戦争を繰り返さないように求めたが、このように世代交代が進めば、当時の記憶は徐々に薄まり、いつか失われ、戦争を認めるようになる時代が来るのかもしれない。

これは大変悲しいことだ。このような事態になることは私たちが何をしても防いでいかなければならない。既に当時のことを知る人は少なくなってしまったが、私たちは戦争の経験を忘れずに、戦争を明確に否定する力を持ち続けるべきだ。これは未来を託された私たちの義務と言っても良いだろう。

さて、「平和」という言葉はしばしば、「戦争状態ではない」ことを指す言葉として理解されるようだ。しかしこれは正しい解釈だろうか。無論、言葉の解釈には正誤などないのだから、自分はこの解釈について違和感を覚えた。なぜなら、戦争状態でないことは平和であるために必要な条件であるが、戦争状態でないからと言っていつも平和であると限らないからである。平和という言葉は、実に様々な意味を含んでおり、これを一言で表すことは不可能だ。国際間の関係についての平和、人種差別のない平和、貧困のない平和、あるいは身近

平和の追求

東海高等学校 1年

下坂元潤生

な友人関係や家族関係における平和というものもある。これらの平和は今、決して全て実現しているとは言えない。世界に目を向ければそれは明らかだ。未だに戦争や内戦は絶えず、黒人に対する差別が行われ、病氣と貧困で苦しむ人々は多くいる。

日本はどうだろうか。そのような国々に比べると、日本人は恵まれた環境で生活している。だから日本は「平和」だろうか。いや、そんなことなどどうでもよいのだ。問題の本質は、私たち日本人が今何をすべきか、ということだ。日本が戦争を放棄して、穏健な国家を実現しようが、世界には依然として様々な解決すべき問題がある。「平和」を目指すのであれば、私たちは世界で起こっていることにも目を向けて、その解決に尽力すべきだと思う。

恒久的な「平和」を実現するのは、ほぼ不可能に近い。しかし自分は、平和を追求する過程に意味があると考える。世の全ての人々が、平和を実現するために、一歩ずつ前進していくことを願わんばかりである。